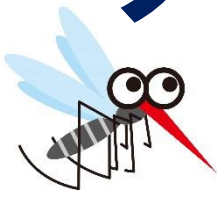


クリニックレポート



今月の話題：虫刺され

気温の上昇とともに増えてくるのが虫刺され。

軽くみてしまいがちですが、跡が残る、ときには重症化し、病気の感染や命の危険にさらされることも。

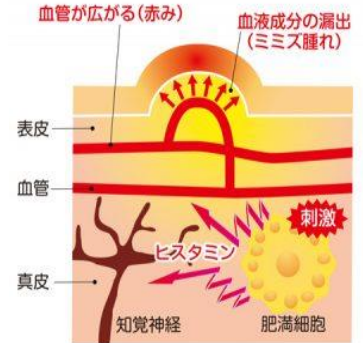
虫が活発に活動する時期です。正しい知識と対処法を頭に入れておくと安心です。

⚠ 虫刺され、こんな人は要注意！

- 体温が高めの人
- 汗っかきの人
- 飲酒している人
- 薄着の人
- スポーツ後の人
- 子ども
- 黒っぽい服を着ている人
- ペットを飼っている人

💡 腫れやかゆみの出るしくみ

アレルギー反応の一種。虫の唾液など異物を追い出そうと、肥満細胞を刺激。ヒスタミンという物質を放出し、かゆみを生じさせ、血管拡張することで、腫れが出る。



出典：生活＋健康「かゆみ原因と対処法4ステップ」

この時期は、こんな虫が危険！！

蚊

蚊の種類によってマラリア、デング熱、日本脳炎などの病気を媒介する。蚊は二酸化炭素、体温、汗に含まれる乳酸やアセトンに反応する。そのため、飲酒やスポーツ後には寄ってきやすい。予防は、「ディート」が含まれている虫よけを使用する、服装などでガードを。刺されたら、流水で洗い、虫刺され薬を塗り、冷やすことで、腫れないようにする。特に子どもは「とびひ」になりやすいので注意が必要。

毛虫

毒針毛という毛に覆われている。直接触らなくても木の上にいる毛虫から毒針毛が落ちてきて、肌がかぶれる場合も。予防には、虫食いの葉に触らない、ツバキやサザンカの近くを通るときには葉に触れないようにする。長袖長ズボン、帽子をかぶるなどしてガードを。刺されたら、ガムテープなどで毒針毛を除去後、水で洗い流す。かゆみが強く、ステロイド剤が効果的なので、皮膚科を受診する。

ハチ

刺されると強い痛みがあり、腫れる。スズメバチには強力な毒針があり、最悪の場合死に至ることも。予防には、巣に近づかないこと。ハチを見かけたら、静かに避けること。黒い服は攻撃されやすく、白っぽい服が無難。刺されたら、硬いカード(診察券やクレジットカードなど)を使い、針を弾き飛ばす。毒を絞り出し、流水でよく洗い流す。抗ヒスタミン剤が入ったステロイド剤を塗布する。これは応急処置で、できるだけ医療機関を受診する。ショック症状(じんましん、だるさ、呼吸困難など)が現れたら救急車を呼ぶ。

虫刺され

基本の対処3か条

刺された直後の対処がその後の回復を左右します。どんな虫に刺された場合でも3つのケアをしましょう。

- ① 流水で洗う
- ② 冷やす
- ③ 患部を保護する(かきむしらない)

虫よけ成分「ディート」について 使用上注意として6ヶ月未満児には使用しないことになっています。